

セミナー参加レポート 「豪華客船 タイクツニック号 沈没」における イマーシブ音響技術の活用

レポート：佐藤 こうじ



小劇場でのイマーシブ音響 の現場体験をしませんか

(公社) 日本舞台音響家協会サウンドセミナー

共同主催：公益社団法人日本舞台音響家協会

フライングシアター自由劇場

技術協力：ヤマハサウンドシステム株式会社

フライングシアター自由劇場 第七回公演

バーレスク音楽劇

豪華客船 タイクツニック号 沈没

14人の俳優たちが演じ、歌い、
音を鳴らす極上の音楽劇を支える
イマーシブ音響技術の実験

会場 吉祥寺シアター

日時 6月19日(金)

18時00分 開場

18時30分 開演

定員 50名

入場料 一般3000円 会員2000円

学生1000円

講師 市来邦比古(音響プランナー)

他

協力(劇) ステージオフィス

フリーランスオフィス

公益社団法人音楽文化伝達事業団

申込 日本舞台音響家協会HP

<https://www.ssa-j.or.jp>

03-3205-6943

公演詳細

東京公演

2024年6月19日(金) 18:00

会場：吉祥寺シアター

公演時間：18:00

定員：50名

入場料：一般3000円 会員2000円

学生1000円

講師：市来邦比古(音響プランナー)

他

協力(劇) ステージオフィス

フリーランスオフィス

公益社団法人音楽文化伝達事業団

申込 日本舞台音響家協会HP

<https://www.ssa-j.or.jp>

03-3205-6943

概要

2026年6月19日、吉祥寺シアターにて開催された(公社)日本舞台音響家協会、フライングシアター自由劇場 共同主催のサウンドセミナーに参加した。本セミナーでは、フライングシアター自由劇場 第七回公演「豪華客船 タイクツニック号 沈没」(演出：串田和美)を題材に、音響プランナー市来邦比古氏によるイマーシブ音響技術の現場実演と解説が行われた。

システム構成

本公演の音響システムは、市来氏が所有する「DME7 SoundxR image」を中心に構築されていた。

- ・ミキサー：YAMAHA DM7C
- ・プロセッサー：YAMAHA DME7 (32in 16out)
- ・イマーシブスピーカー出力構成：
 - メイン：NEXO S12 (1/1 × 2セット)
 - フロントル：NEXO P8 (6)
 - ウォール(LR)：NEXO ID24 (6)



図1 スピーカーシステム配置図

Signal Flow

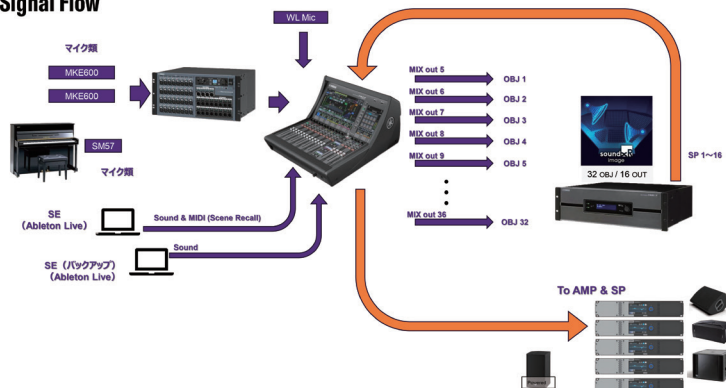


図2 シグナルフロー図

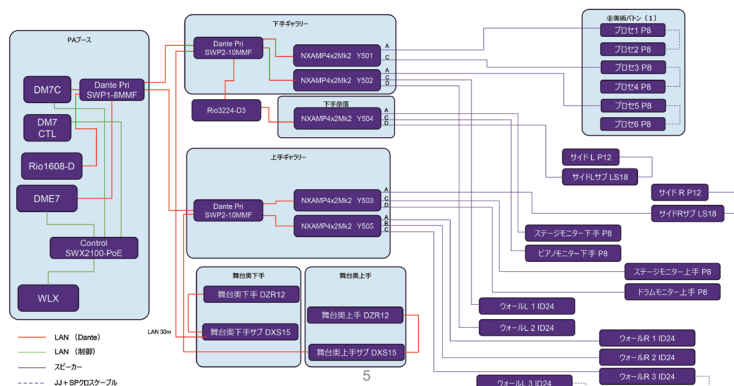


図3 システムブロックダイアグラム

ステージリア：YAMAHA
DZR12 (1/1 × 2セット)

- ・一般音響スピーカー出力構成
楽器用モニター：NEXO P8(2)
演者用モニター：NEXO P8(2)

マイクとオブジェクト設計

空間表現のために下記の通り
多様なマイクが活用されていた。

- ・マイクの種類：ペンシルマイク(吊2本)、ガンマイク(吊2本)、フットガンマイク(5本)、および楽器用マイク多数。

- ・運用：マイク入力のはほぼ全てをオブジェクトとして立ち上げ、「Sound xR enhance」を使用せず、マイク位置とオブジェクト設定を組み合わせることで自然な広がりを出していた。

セミナー内容と技術的知見

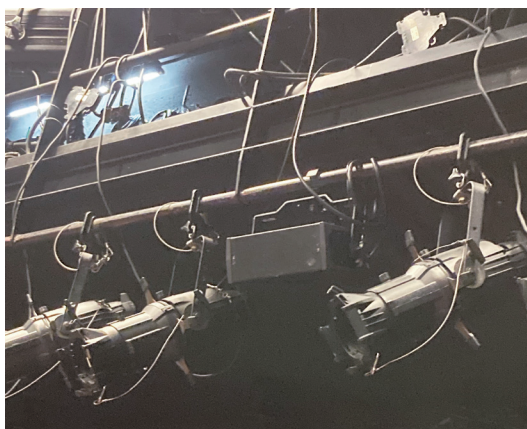
市来氏によるイマージブ効果
応用は4回目であり、それに基
づく本セミナーでは、客入れの
時点から豊かな定位感が確保さ
れていた。

オブジェクトベース音響の利点

- ・直感的な操作：従来の「dBによるレベル調整」ではなく、タブレットを使用して「上へ」「左へ」と直感的に音像を移動させることが可能である。
- ・演劇音響の課題解決：スピー
カーを物理的に配置できない
場所にも定位を作れる点は、
演劇音響における画期的なア



実際の舞台セットを用いてセミナーが行われた



ウォールスピーカーに使用されたNEXO ID24

プローチである。

- ・ワークフローの効率化：通常の仕込みと比較して時間はかかるものの、音作りそのものは圧倒的に速い。また、スピーカー位置の変更が必要な際も、設定をずらすだけで対応可能なため修正が容易である。

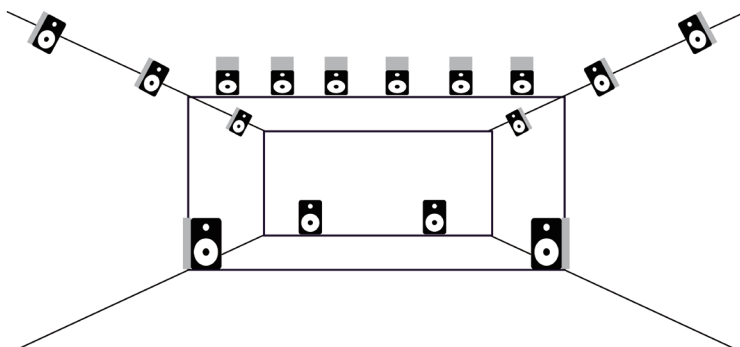


図4 スピーカー配置のイメージ図

システム拡張性と今後の展望

DME7はライセンス追加により最大64in 32outまで拡張可能である。現在の16out構成では吉祥寺シアター規模には対応可能だが、より大規模な会場や特殊な定位表現を求める際には、さらなる出力数が必要になる可能性があると感じた。

結びに

今回のセミナーを通じて、空間オーディオ技術が演劇の音楽表現をどのように深化させるかを深く体験することができた。なお、筆者が3月に豊橋で行った公演のレポートについては、近日公開予定である。



図5 吊り込みマイクロフォン配置図